



大阪新聞錦画 十二号

明治八年五月の頃東京本所松本町二日金子清郎の
 母房おきみの子供四つをもち、央くまの年をへ初め
 咲く帰り花薄さるるもあそむらぬ庄の職人と悪いを
 しく居るが亭主おまれば彼の男八つて仕よのおきみをとらへて
 清郎鉈で頭を切込みてえとせし血の紅ひを翻車お
 せしく大さかして
 此頃親里へ引取
 療治せし居る
 とよが甘の
 密まて人脈の大
 とくあり亭主の
 多のりも有るやうとて購買
 百三号戒しむ
 文化堂印

河原田修重

河原田修重

大阪新聞錦画12号 文庫10-8066-12

